岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール　那加校・望月由

問題【社会】

今回は古代の政治や宗教などがテーマ。次の問いに答えなさい。

（１）朝鮮半島から移り住み、大陸の文化や技術を伝えた人たちを何と言いますか。

（２）仏教が正式に伝わった日本において、仏教の受容で対立したのは蘇我氏と何氏ですか。

（３）推古天皇の皇太子となり、摂政として活躍したとされている人物は誰ですか。

（４）家柄に関係なく、才能ある人を取り入れるための制度を何と言いますか。

（５）仏教や儒学の考えを取り入れた、役人の心構えを示したものを何と言いますか。

（６）小野妹子などが派遣された中国の王朝名を何と言いますか。

（７）飛鳥文化の代表的な寺院で、釈迦三尊像などが納められている寺院を何と言いますか。

豆知識 雑学コラム　神道と仏教、政治と深い関わり

私たちの身近にある神社と寺。これは神道と仏教という異なる宗教ですが、それほど大きく意識することなく私たちの生活の一部に取り入れられています。初詣、冠婚葬祭などがそうですよね。今回は、今でこそ身近にある神社や寺についての流れを見ていきましょう。

「八百万の神」という言葉を聞いたことはありますか？　古代からあらゆる事物に神様が宿ると考えられていて、太陽神や皇室の祖神とされる天照大御神（天照大神）は伊勢神宮の祭神でもあります。また、仏教が伝わる前の日本では神々に対する信仰が政治と深く関わっていて、大和政権時代には神々に対する信仰を仕切っていた物部氏などが朝廷内で権威を振るっていました。

仏教は６世紀の欽明天皇の時代、百済の聖明王から仏像などが送られたことにより正式に伝わったとされています。この仏教の伝来により、仏教の受容に賛成する蘇我氏と受容に反対する物部氏による争いが激しくなります。

この争いは仏教の受容に賛成の蘇我氏が勝利し、推古天皇が即位すると聖徳太子（厩戸皇子）が国政を主導していきます。聖徳太子は「冠位十二階」「十七条の憲法」といった制度をつくり、遣隋使の派遣や法隆寺の建立などを行いました。このことから聖徳太子は日本で仏教の基礎をつくったと言われています。

こうして飛鳥時代から本格的に仏教が政治に取り入れられていくようになるのですが、神道がなくなったわけではありません。後に仏が神という仮の姿になって現れた（権現）という考え方などが生まれて「神仏習合」という神道と仏教が融合した信仰が広まります。

今でも日本の各地には［寺なのに鳥居がある］場所もありますし、［初詣にも行くし、お寺にも行く］ことだって普通です。皆さんも身近にある神道と仏教について調べてみてください。

【解答】

（１）渡来人　（２）物部氏　（３）聖徳太子（厩戸皇子・厩戸王）

（４）冠位十二階　（５）十七条の憲法　（６）隋　（７）法隆寺